

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

②分野横断的な科目群、副専攻科目群等の充実

《理工農系》

●東京大学情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻 「大学連携による ICT リーダーシップ教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

東京大学の特徴と慶應義塾大学の特徴の双方を活かすカリキュラムを相互の協力と授業交換で実現できたことは大きい。具体的には、東京大学情報理工学研究科にはない技術を世の中にどう活かすかといった視点での授業や、慶應義塾大学政策・メディア研究科にはないコンピュータの深部に迫る授業をお互いの大学で提供しあえるようになった。また、それらの体制は本プログラムが終了した平成23年度以降も継続して進められており、今後も継続する計画である。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

東京大学と慶應義塾大学では学務日程や授業実施時間帯が異なるので、遠隔講義システム等を用いて授業をアーカイブし、それらの違いを吸収するようにした。また、講義の交換にあたっては、実際の授業担当教員を非常勤講師として他方の大学で登録することで、学務事務室から見たときに他の大学の授業を配信してもらい形式ではなく、当大学の授業として事務処理・連絡できるような体制にしたこと。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

本プログラムのような大学間の交流を前提とした活動は、その継続性が困難であることが多く、プログラムの終了と共に授業交換などが終わることが多い。しかし、本プログラムでは、運営体制、遠隔講義システムを用いた技術的なサポートを確立したことで継続を可能とした。これらのやり方は他の大学間でも応用可能であり、その実施モデルを示せたことは大きな成果と言える。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

B. 円滑な学位授与の促進

①複数教員による多面的な指導体制の整備

《理工農系》

●東京大学情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻 「大学連携による ICT リーダーシップ教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

東京大学情報理工学系研究科において複数教員による多面的な指導を単位として認め、学生が積極的にこの仕組みを利用できるように促す仕組みを整えた。具体的には、修士課程と博士課程にそれぞれ「情報理工学修士 GP 実習Ⅱ」「情報理工学博士 GP 実習Ⅱ」を設置した。それにより、東京大学の学生の学位指導を慶應義塾大学の教員がサポートし、大学、研究室をまたがる複数教員による多面的な指導体制を確立した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

複数教員による指導を実現するにあたり、その指導をどのように実現するかが課題であった。具体的には教員や学生の移動が伴うので、これを極力減らすために遠隔講義システムや遠隔指導システムを利用するなどして、二大学間で離れた距離をいかに縮めるかを考慮した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

遠隔講義システムや遠隔指導システムは、複数教員による指導の実現に有効であり、教員や学生の移動コストを減少させ、それにより指導の回数を増やせる可能性を示した。大学間にまたがる複数教員による指導により、多面的な学生指導が可能となり学生教育に非常に役に立った。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

《理工農系》

●東京大学情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻 「大学連携による ICT リーダーシップ教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

東京大学情報理工学系研究科においてインターンシップを単位として認め、学生が積極的にこの仕組みを利用できるように促す仕組みを整えた。具体的には、修士課程と博士課程にそれぞれ「情報理工学修士 GP 実習Ⅲ」「情報理工学博士 GP 実習Ⅲ」「情報理工学博士 GP 実習Ⅳ」を設置した。それにより、インターンシップを活用する学生が増え、産業界と大学における連携の強化が実現できた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

インターンシップを単位として認めるにあたり、単位を授与するかどうかを厳しく審査する必要があった。それを実現するために大学院GP運営委員会にて提出されたレポートを元に審査を実施した。また、海外へ長期インターンシップする学生に対する経済的なサポートについても考慮した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

インターンシップを実施したことで、学生が大学内だけにとどまらず国内外の研究機関や企業と関わり合いをもち、研究の幅を広げられたことが大きい。また、海外に長期インターンシップする学生に対して、旅費として日当を支給する形はとれなかったものの滞在にかかった実費を精算する形で経済的なサポートを実現でき、学生がインターンシップ・研究活動に集中できる環境を整えられた。本プロジェクトの発足後、著しく国内外インターンシップに出る学生が増えたことは、整備した教育システムが有効であったことを示していると判断した。